

ベーシックデザイン教育のオープンスクール用テキスト作成

提案者 工学部 木下武志

研究の背景と目的

高度情報化社会における情報産業の有力な分野として、マルチメディアに用いられるデジタル・コンテンツに対する需要やそれへの期待が急増している。しかし、高品質なデジタル・コンテンツを制作・生産する上で重要な「デザイン」技術は一般的に依然、芸術（アート）や美術と同一視され、産業技術としても捉えられていない状況にある。

本研究で開発する教材（テキスト）は、バウハウス（1919-1933）の予備課程で始まったベーシックデザイン教育方法をもととし、より実践的なデジタル・コンテンツ・デザイン応用へ偏らせ、必須条件となる色彩・形態の把握・構成（または、制御）を行うことを目指している。内容としては実習課題と教育方法の考案を行い、これをオープンスクールにおいて実践応用した。参加者に対し、デザインを科学の対象として捉える視点やデザイン実務に近い実習課題制作と制作物評価の体験を通じて、ベンチャーマインドを高めることを図っている。

研究成果

平成12年度VBLオープンスクール第一陣として、教材開発を並行して進めながら、ベーシックデザイン・オープンスクールが開催した（図1）。サブタイトルは「マルチメディア社会が求めるデジタル・コンテンツ制作者養成を目指して」となっており、対象を通学可能な宇部市内の中学生・高校生に対して行った。授業内容は、デザイン論・実習課題（色彩構成、平面構成）の制作、講評と作図（錯視図形）から構成されている。

平成12年9月から、毎週金曜日の17時～18時半の時間帯で実施し、通算12回のスクールを開催した。期間内に中学・高校側の中間試験や期末試験が入ったことや、対象の参加者のレベルより少しハードな実技課題など（図2）を含んでいたこともあって、当初20人近くいた受講者のうち12月に修了認定を受けたのは8人となった。長期間のオープンスクールを初めて計画したこともあり、多くのすることになった。主な反省点は、1）中学・高校の行事日程との調整、2）開催時間帯の適正化や悪天候時への対応、

3）ホームワーク課題の適正化、4）中学・高校側への広告方法の改善、などである。

最終回には、講義終了後、茶話会を開催し、ベーシックデザイン・オープンスクール修了認定書が一人一人に渡されると共に、今回のオープンスクールのアンケート調査を実施した。

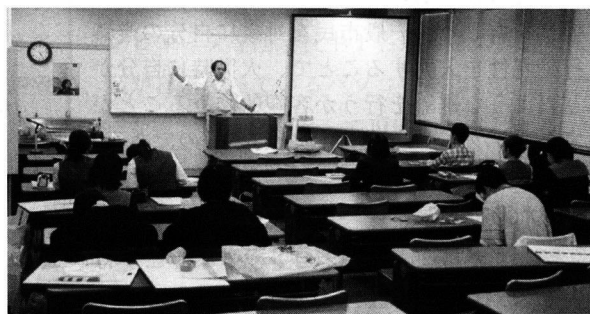


図1 授業風景

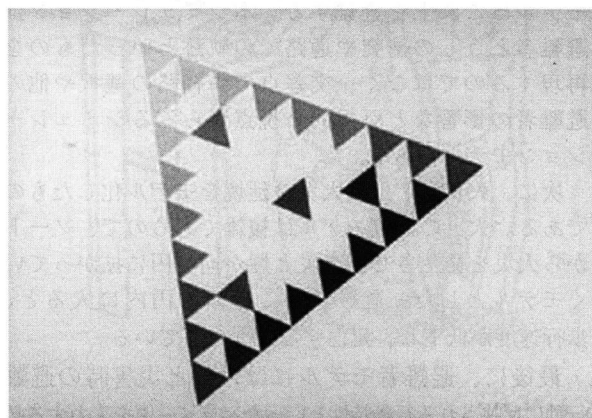
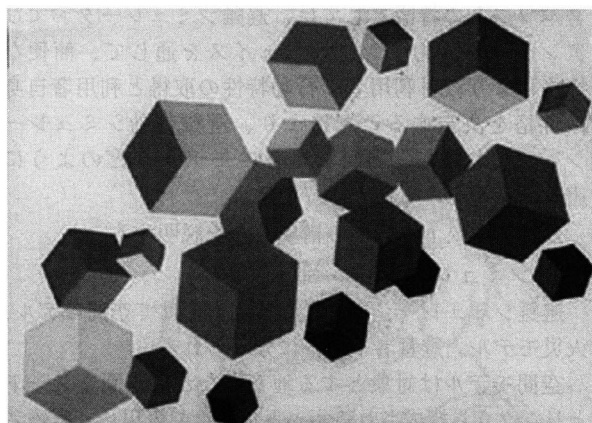


図2 課題制作物例

登録研究テーマ「ベーシックデザイン教育のオープンスクール用テキスト作成」

Tel:0836-85-9718